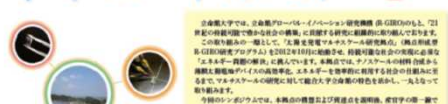


R-GIROの研究成果発信

R-GIRO研究拠点シンポジウム

高効率薄膜太陽電池の 未来と立命館大学



立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、高効率薄膜太陽電池の未来と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、高効率薄膜太陽電池の未来と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

立命館大学が目指す ITと医療の融合



立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、ITと医療の融合について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、ITと医療の融合について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

立命館大学が目指す 夢の機能材料



立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、夢の機能材料について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、夢の機能材料について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

立命館が考える 農業の六次産業化



立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、農業の六次産業化について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、農業の六次産業化について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

立命館が考える 2020年のエネルギーの 地産地消



立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、2020年のエネルギーの地産地消について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、2020年のエネルギーの地産地消について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

まさか!に備える 情報通信技術と 立命館大学



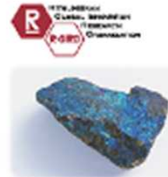
立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、まさか!に備える情報通信技術と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、まさか!に備える情報通信技術と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

ものづくりで興す ライフイノベーションと 立命館大学



立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、ものづくりで興すライフイノベーションと立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、ものづくりで興すライフイノベーションと立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

逼迫する鉱物資源需給の 解決に向けた技術創成と 立命館大学



立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、逼迫する鉱物資源需給の解決に向けた技術創成と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、逼迫する鉱物資源需給の解決に向けた技術創成と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

食料輸出立国を目指した 先進アグリ技術と 立命館大学



立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、食料輸出立国を目指した先進アグリ技術と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、食料輸出立国を目指した先進アグリ技術と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

持続可能社会の 水・環境技術と 立命館大学



立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、持続可能社会の水・環境技術と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、持続可能社会の水・環境技術と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

ウェルネス社会の 先端医療技術と 立命館大学



立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、ウェルネス社会の先端医療技術と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、ウェルネス社会の先端医療技術と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

低炭素社会の エネルギー技術と 立命館大学

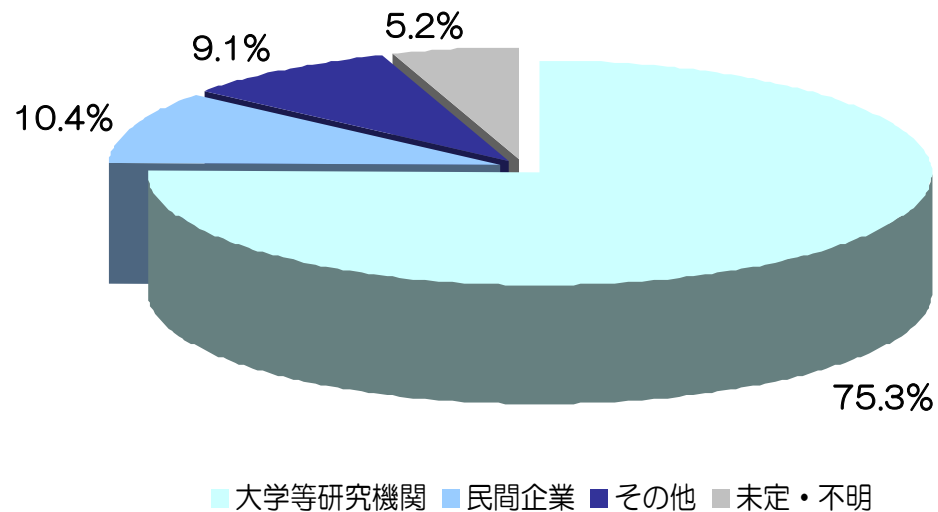


立命館大学では、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の12月1日のシンポジウムで、低炭素社会のエネルギー技術と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。藤田准教授は、低炭素社会のエネルギー技術と立命館大学について、立命館大学大学院工学研究科の藤田 隆雄准教授が講演しました。

R-GIRO専任研究員の進路状況

2008年のプログラム開始以降、ポストドクトラルフェロー61名、研究支援者16名を輩出

機関種別進路内訳



雇用種別進路内訳

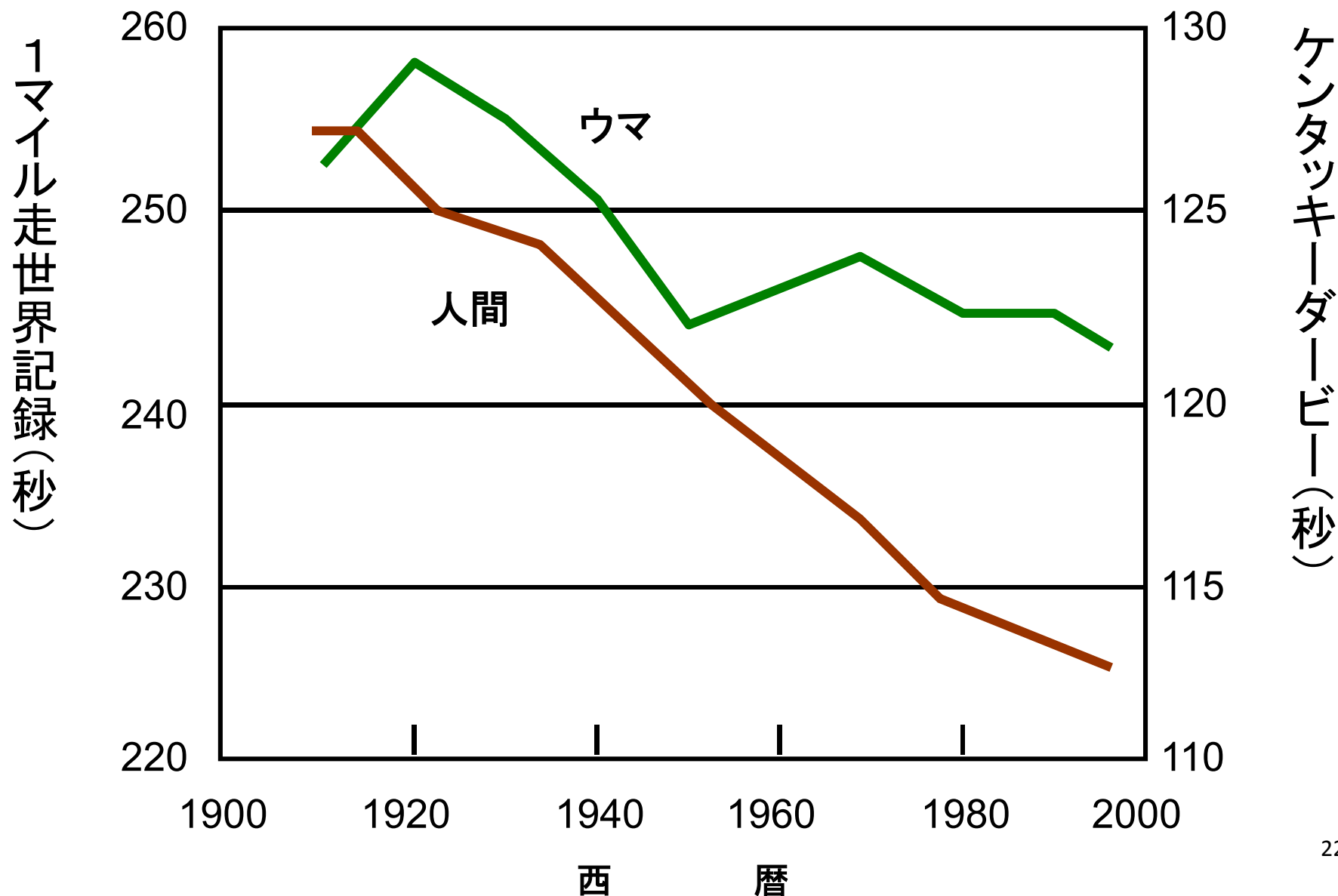
	大学等研究機関	民間企業	その他	未定・不明
ポストドクトラルフェロー	47名	6名	5名	3名
研究支援者	11名	2名	2名	1名

R-GIROの取り組みの特徴

(1)	研究課題の設定	学長の強いリーダーシップで全学一致で 重点的・政策的な研究課題を決定	研究担当副総長をはじめとする 学園執行部で決定
(2)	管理・運営の確立	全国でも珍しく学長直轄のトップ・ダウン体制	研究担当副総長が運営・管理の責任者
(3)	大胆な予算措置	私学としては突出した独自の予算措置	年間3億円 X 8年間
(4)	若手研究者の 人材育成	人材育成に重点を置き、若手研究者の 採用のみ支援(PD、RAの95%が就職)	若手研究者に必要な研究費は 学外から各自で獲得の義務付け
(5)	文理融合	自然科学系と人文社会科学系に 共通な研究課題の選択	全学で自然科学・人文社会科学系の 融合を奨励
(6)	厳格な成果評価 システム	報告書の定期的提出の厳格化、学内・学外の定 期的評価の実施(6ヶ月)	運営委員会・シニアアドバイザー制度 の設置(報告書提出、シンポジウム開 催、論文発表などの詳細のフォロー)
(7)	産学連携の強化 体制	教職協働体制 (テクノプロデューサー)	産学連携に特化したリエゾンオフィスの 完備、MOT
(8)	本学の一貫教育を 100%活用	高校生に対する科学技術の啓発活動の実施	R-GIRO Junior制度の設置 (立命館高校)
(9)	グローバル化	APU(立命館アジア太平洋大学)の活用(予定)	教員のみならず留学生の啓発・活用

R-GIRO設立で学んだ事 ⇒ 明確な研究目標の設定

人と馬の記録の変遷(100年間)



人間の記録は年々伸びている。
一方、馬の記録は1950年以降同じ。一体、何が異なるか？

人間：『記録を破る！』との目的意識が明確
⇒ 明確なVisionあり
馬：走る目的意識が全くない
⇒ 全く Visionなし



研究も全く同じ：**危機感**から生まれる、明確なVisionの設定が不可欠
⇒ VW (Vision and Hard Work) 山中伸弥教授に100%同意

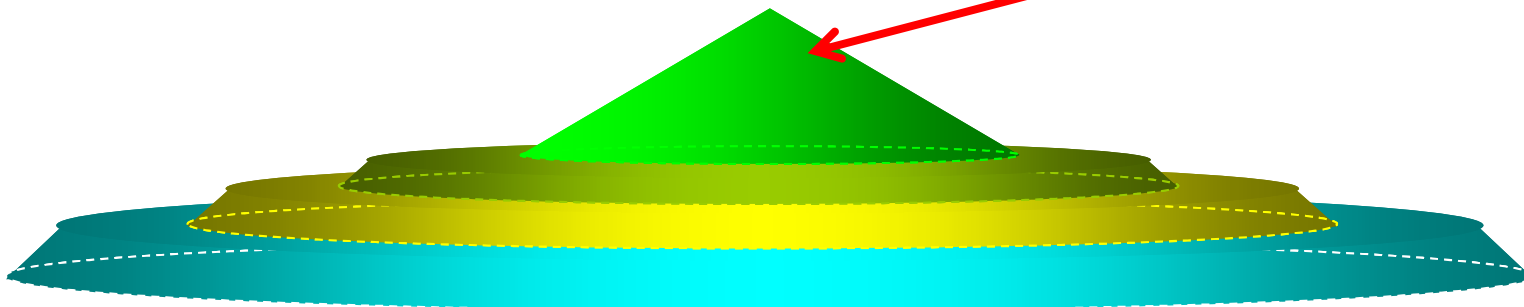


2012年度からVWを明確にした研究拠点形成の開始

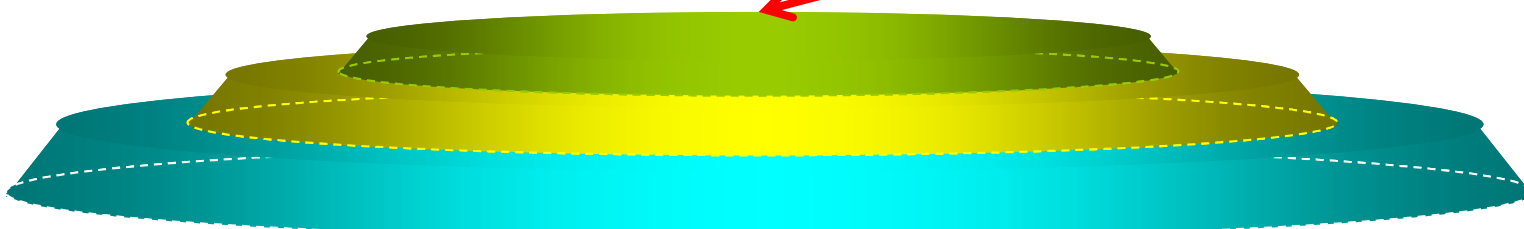
『自然共生型地球学』の創成 ⇒ 事業化 ⇒ 研究で社会貢献の促進

立命館大学での研究

第4段階(2016年以降)の研究高度化 ⇒ 研究の先端化による事業化の促進



第3段階(第二期R-GIRO設立後)の研究高度化 ⇒ 8プロジェクトの採択



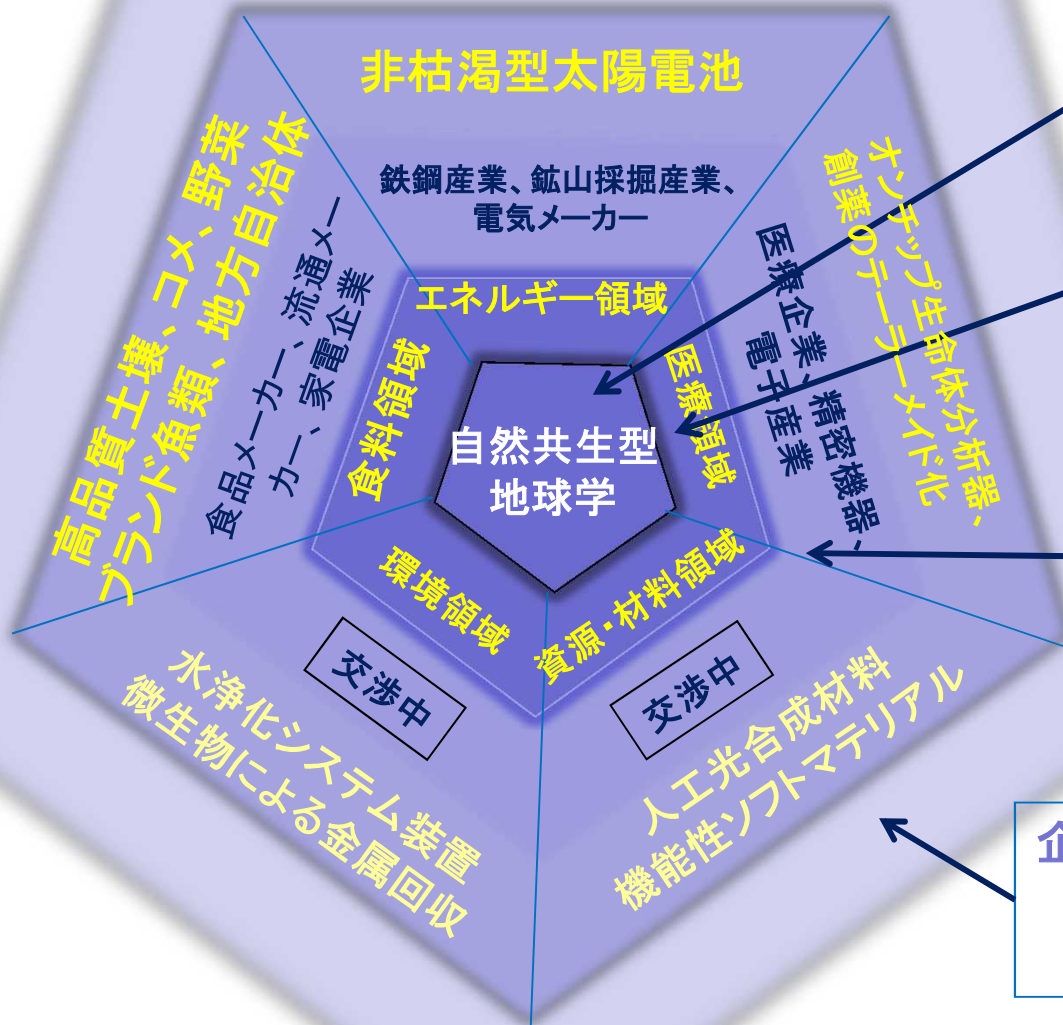
第2段階(R-GIRO設立後)の研究高度化 ⇒ 33プロジェクトの採択



第1段階(R-GIRO設立以前)の研究高度化 ⇒ 個別研究の基盤整備

21世紀の日本のものづくり～自然共生型地球学ペンタゴンから創成

海外展開(総合商社との連携)



核: R-GIROで構築した
21世紀の日本での
ものづくりの理念

大学の使命: 研究開発および
高度産業人材の育成

ペンタゴンタワー:
Under one roofでステージ
ゲージでの事業化
⇒産学融合による
製品開発

企業のみならず大学 (APU) の
人的チャンネルを駆使した
事業化のグローバル展開

2012年度採択テーマ

COI事業総責任者
川口清史総長・R-GIRO機構長

産学連携責任者
渡辺公三副総長
中谷吉彦産学官連携戦略本部副本部長
テクノプロデューサー(TP)

COI運営管理
村上正紀副総長・R-GIRO機構長代理
行正秀文R-GIRO副機構長
サトウタツヤ研究部長・R-GIRO副機構長
R-GIRO事務局(研究部)

海外渉外部門
モンテカセム副総長
飴山恵国際部長

小林紘士SA
R-GIRO拠点形成コーディネーター

飯田健夫SA
R-GIRO研究顧問

田中道七SA
R-GIRO研究顧問

太陽光発電マルチスケール 研究拠点		ITと医療の融合による 次世代e-Healthの研究		ものづくり科学技術で興す 医療・健康イノベーション拠点		農水産業の6次産業化による新 しい食料生産システム研究拠点	
グループリーダー		グループリーダー		グループリーダー		グループリーダー	
1	田口耕造 理工学部 教授	①	陳延偉 情報理工学部 教授	①	小西聡 理工学部 教授	1	久保幹 生命科学部 教授
②	峯元高志 理工学部 准教授	2	田中弘美 情報理工学部 教授	2	藤田卓也 薬学部 教授	2	高田達之 薬学部 教授
3	福井正博 理工学部 教授	3	李周浩 情報理工学部 教授	3	藤田聡 スポーツ健康科学部 教授	3	建山和由 理工学部 教授
4	谷口忠大 情報理工学部 准教授	4	平井慎一 理工学部 教授	研究者総数: 43名		4	海老久美子 スポーツ健康科学部 教授
研究者総数: 51名		研究者総数: 28名				⑤	松原豊彦 経済学部 教授
						研究者総数: 22名	

※SA:シニアアドバイザー
※○印付:拠点(プロジェクト)リーダー

新たな概念であるバックキャスト型[®]のステージゲート法を用いて、
研究成果の事業化の確実性を高める

事業化達成

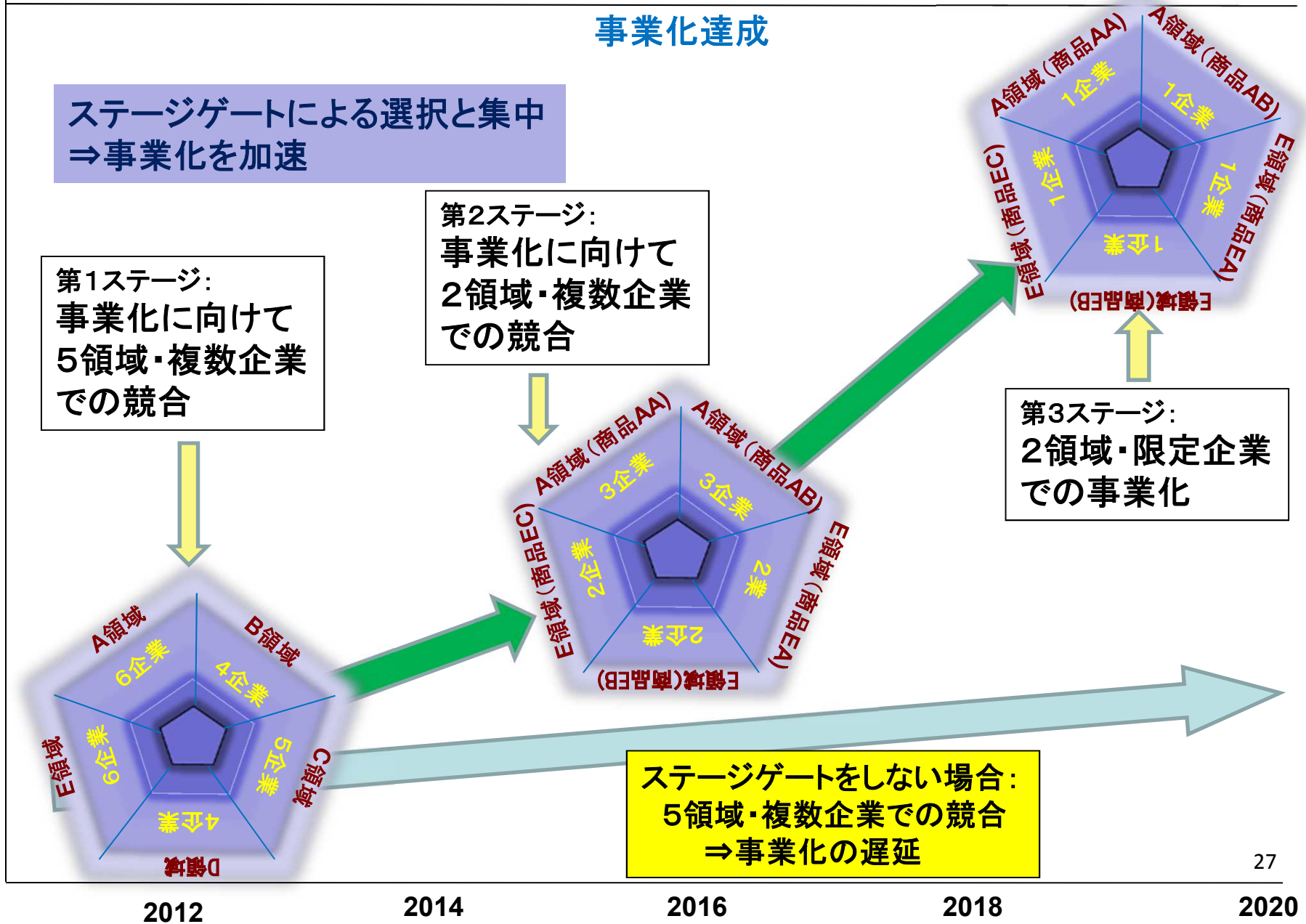
ステージゲートによる選択と集中
⇒事業化を加速

第1ステージ:
事業化に向けて
5領域・複数企業
での競合

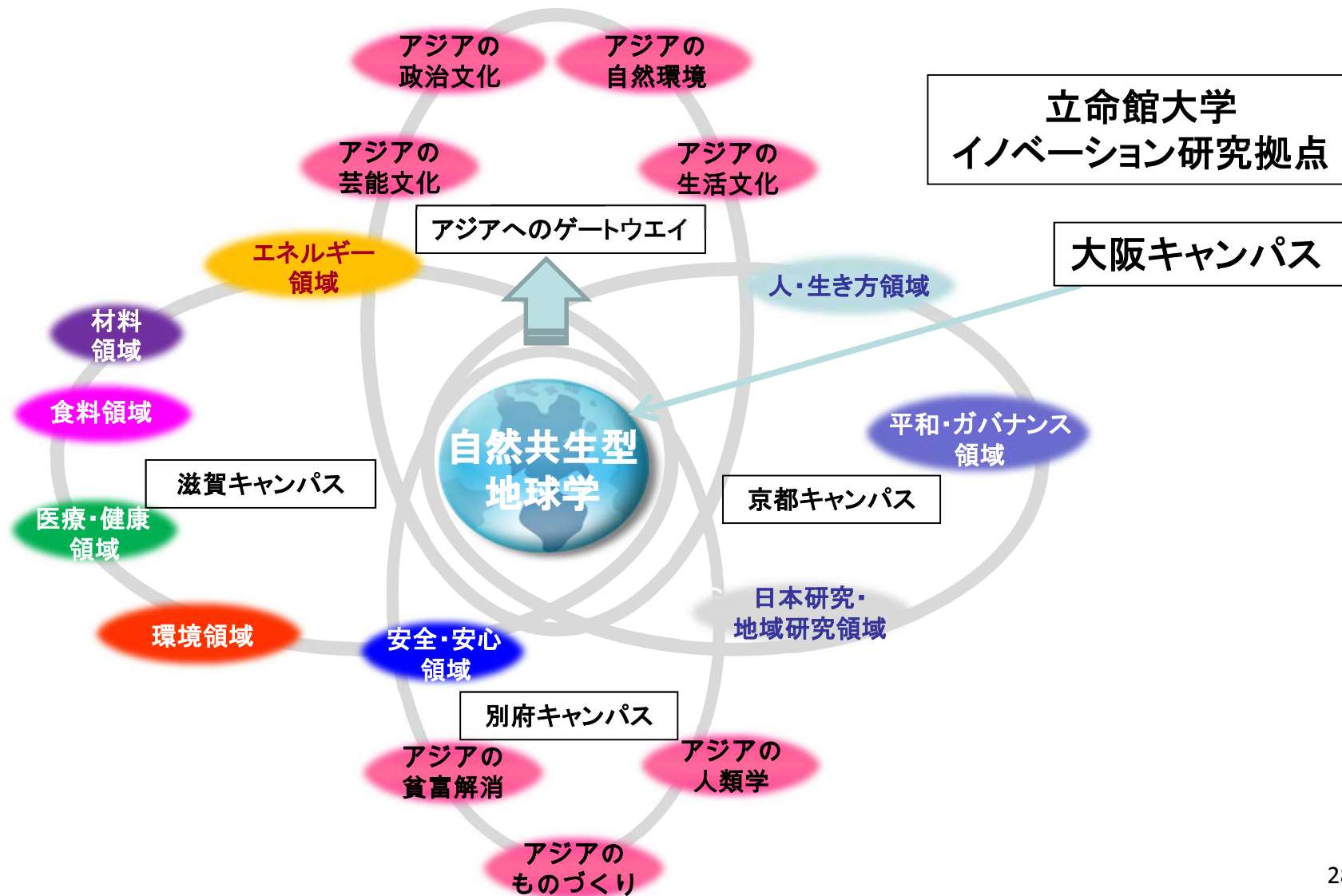
第2ステージ:
事業化に向けて
2領域・複数企業
での競合

第3ステージ:
2領域・限定企業
での事業化

事業化達成度



教員のみならず、留学生を活用した国際化の確立
 ⇒ 立命館アジア太平洋大学(海外留学生50%)
 ⇒ アジア・アフリカの発展に貢献



研究高度化による教育に及ぼす効果(その1) ⇒ 将来を担う若者に夢を与える
(アメリカの心理学者 マズローの5段階の欲求)

将来の学生の目線

1980年頃から現在の学生の目線

